

西成発！ 居住サポート研究会

西成プラザのある西成区は、高齢者、障がい者をはじめ、ひとり親家庭や野宿生活者等の住宅困窮者が数多く存在し、また、老朽住宅や最低居住水準未満世帯の比率が市の平均を大きく上回る等、住宅事情も劣悪です。しかし、近年は、行政においても安心して住み続けることができるまちづくりに向け、住宅部局と福祉部局の連携による居住支援政策が進められています。

西成区北西部を拠点に活動するNPO法人ソーシャル・インクルージョン（SI）協会が、2009年度大阪市市民活動推進基金助成事業に「住宅困窮者居住サポート事業」を提案し、採択されたことから、5月に水内（都市研究プラザ教授）を座長、全（都市研究プラザ准教授）を副座長とし、さらに、佐藤（特任教員）、米野（都市研究プラザ博士研究員）、葛西、稲田、若松（G-COE特別研究員）とSI協会、地域活動家により「西成居住サポート研究会」を立ち上げ、9月より西成プラザRA平川も加わり主に第3ユニット構成員が中心となって進めています。

福祉×建築×地域という3方向からの議論を重ね、現在は地域の住宅事情の把握に向け、宅建業者へのヒアリングを開始したところです。今後は、これまで見えなかった住宅供給側への調査を行い西成区の住宅ニーズや住宅流通の仕組みを解明しながら、「西成において誰もが安心して住み続けることができる支援のあり方」を模索していきます。

■ 蓬菜梨乃（西成プラザRA）



火災延焼の危険性が高い密集市街地

ストリートワイズ・オペラ

2009年8月29日（土）、30日（日）西成プラザに、イギリスからストリートワイズ・オペラ（以下、SO）のスタッフ、釜ヶ崎で紙芝居劇を展開するむすびのメンバー、アートやまちづくりに関心のある市民などが集まった。イギリスでオペラを通じてホームレス支援をするSOによるワークショップ（以下、WS）や講座が開かれた。8月31日には、水都大阪2009 中之島公園 文化座劇場で、アートの価値や領域を考え、市民、自治体、企業、大学などとの協働をさぐるシンポジウムを開催。紙芝居劇むすびがWSを通じて形にした新作の発表も行われた。

この一連の取り組みは、都市研究プラザをはじめ、ブリティッシュ・カウンシル、NPO法人ココロームなどの多様な主体によってつむがれる。中でも、アート団体SOに視線が注がれた。代表のマット・ピーコック氏による講演では、質の高い表現活動こそが、社会に対する自信や関係を取り戻す大きな契機となることが紹介される。WSでは、プロの作曲家やオペラ歌手を交え、むすびのメンバーを中心に参加者全員で歌や振り付けを作り上げていく。さらに人材育成にも力をいれる。WSの手法を学ぶ講座も開かれた。

日本ではまだまだ未開拓といえる、社会的に排除を受けた人たちとの協働の場づくりを、イギリスの事例から学ぶ機会となった。研究・学習・実践が連続的に行われた今回の取り組みを通じ、より広く市民に社会包摂あるいは文化創造の可能性を感じさせるものとなった。

■ 平川隆啓（西成プラザRA）